

学校アンケートの分析

世田谷区立武蔵丘小学校

1 全体を通して

児童・保護者・地域とも、ほとんどの項目においても「A とても思う」（以下「A」）「B 思う」（以下「B」）の回答が6割を超えており、学校に対して好意的であることが分かる。一方で、「E 分からない」（以下「E」）との回答が多い項目として、児童のアンケートからは「学び舎」「中学校からの情報提供」が目立った。保護者からは「学習指導について」「キャリア教育について」「学び舎」「中学校からの情報提供」が多かった。地域からは「安全教育について」「学校運営について」「地域との連携について」の項目が多かった。

学校は主に紙面を通して情報提供を行っているが、工夫の余地はあると考える。

2 児童アンケートから

- (1) 「1.学習について」では、いずれの項目も「A」「B」の回答を合わせて7割を超えている。特に「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業で取っている。」と「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする時間を授業の中で取っている。」の項目では、「A」「B」を合わせて9割に届くほど肯定的である。教員は、児童が主体的に学習に取り組めるよう、日々の授業を工夫していることが分かる。
- (2) 「2.生活指導について」では、「私は、学校のきまりを守って、行動している。」の項目で、「A」「B」合わせて8割の児童がきまりを守って行動していることが分かった。高学年児童によるきまりを守る行動は、低・中学年への手本となるため、今後も児童がきまりを守れるよう見守っていききたい。また、「先生に注意されたことは、理解できる。」では、「A」「B」合わせて9割を超えている。教員による丁寧な指導の成果であるとともに、児童の素直に受容する態度も関係していると考えられる。今年度、本校では「廊下歩行」を重点項目として指導してきたこともあり、メタ認知が進み、正しく行動できるようになってきた。
- (3) 「3.学校行事について」では、全ての項目において、肯定的な数値が8割を超えていた。学校行事を楽しみにし、意欲的に取り組んでいることが分かった。今後も、児童の思いを大切に、児童とともに行事をつくっていききたい。
- (4) 「4.キャリア教育について」の「区立中学校に関する情報が提供されている。」の項目では、「A」「B」の肯定的数値は5割以下となっている。また、「E」と回答した児童が2割にのぼる。また、「6.全般について」の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来

たりする機会がある。」の項目も、肯定的数値が4割程度となっている。中学生が運動会のボランティアに参加したり、職業体験で来校したりしている様子を、学年や学級においてさらに周知することも必要と考える。

- (5) 「5.先生ついて」では、「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」において「A」「B」合わせて9割に迫る回答がある。今後も学習指導や生活指導をはじめ、児童一人一人を大切にしたい指導を心がけていく。一方で、「先生たちに相談できる。」では、3割が否定的に捉えている。高学年のアンケートのため、教員より友達に相談する児童が多いと考えられる。また、回答する児童の考える「先生」とは、学級担任のことであると思われるため、内容によっては担任には相談しづらいこともあると推察される。学校全ての教員が味方である、誰にでも相談できることを、さらに児童に伝えていきたい。
- (6) 「101.安全教育について」の「私は交通ルールを守っている。」では、9割を超える肯定意見がある。痛ましい交通事故もあったため、交通安全に対する意識は高いと思われる。今後も事故のことを風化させず、児童の意識を高くもち続けられるように、安全指導日を中心に指導をしていく。

3 保護者アンケートから

- (1) 「1.学習指導について」では児童のアンケートに準じた結果となり、いずれの項目も肯定的数値が高い。児童のアンケートとの違いは、「E」の回答が増えていることである。授業の様子は、児童を通して知ることが主な情報源と思われるため、学校の様子を話さない児童がいたり習い事等で家族がすれ違っていたり、多忙がために会話をするゆとりが無かったりすると、学校の様子を知ることは難しいと思われる。その日の出来事を話す機会を増やせるよう保護者会や個人面談等で啓発していくことも大切と考える。
- (2) 「2.生活指導について」では、教員の指導および指導したことについての理解について、肯定的数値が7割を超える。教員は児童が理解できるように指導するとともに、指導した内容を保護者へ丁寧に伝えているため、保護者も合意形成ができていていると考えられる。今後も、丁寧な指導を意識していきたい。
- (3) 「3.学校行事について」では、肯定的数値が9割ほどである。保護者の認知が高いのは、児童が行事を楽しみにしていたり、練習の様子を家庭で話したりしていることがうかがえる。それには、児童が主体となって取り組んでいることが要因と考えられる。
- (4) 「4.キャリア教育について」では、「E」をつけている保護者が3割にのぼる。保護者はどのような取組をしているか分かりにくいと感じていると思われる。本校では、学期の初めにキャリアパスポートを書いている。「学習」「学校生活」「家庭での生活」についての目標を立て、学期末に振り返るとともに次の学期や次の学年に向けての目標を立てる活動をしている。今年度末から保護者からのコメントをもらうようにするため、保護

者の意識も変化していくと思われる。

- (5) 「6.全般について」の項目では、おおむね肯定的数値が高い。特に、「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」では9割を超える保護者が肯定的に捉えている。児童のアンケートにおいても「A」「B」評価を合わせて9割近くが、学校は楽しいと捉えている。その様子が保護者にも伝わり、肯定的数値の高さとなって表れていると思われる。
- (6) 「7.学校からの情報提供について」では、「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」および「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。」の項目において、肯定的数値が9割を超えている。一方で、ホームページやメールでの情報提供については、肯定的数値が8割程度となっている。学校内部評価でも月に一回は学年の様子を発信していくことが確認された。積極的に学校の様子を発信していきたい。
- (7) 「8.学校運営について」では、いずれの項目も好意的であることがわかる。今後も、教職員が互いに協力し合って教育活動の充実を図りたい。
- (8) 「9.家庭と学校の連携について」の「私は、学校公開にすすんで参加している。」では、9割にのぼる保護者が参加していることが分かる。
- (9) 「10.地域との連携について」における、学校の地域人材の活用や学校の地域の活動への協力といった項目では7割を超えて肯定的である。地域によるアンケートにおいても同様の結果となっている。地域支援コーディネーターがパイプ役となり、地域の人材や施設と学校をつないでくれていることによって教育活動が体験的になり、学習内容の充実が図られている。また、地域の祭りや行事に、教員も参加し始めている。こうした活動を続けていけるよう努めていく。
- (10) 「11.学校の安全性について」「10I.安全教育について」では、高い評価を得ている。毎月の安全指導日には、年間指導計画に沿って安全に関する指導の時間を確保し、意識を高めている。また、避難訓練やセーフティ教室などで安全に関する指導も繰り返し行なっている。児童の交通ルールを守ろうとする意識が高いことも、8割の保護者が実感している。こうした指導によって、児童に確実に安全に対する意識が定着していることがうかがえる。

4 地域について

- (1) 「2.学校行事について」では、おおむね高い評価を得ている。特に「学校行事の内容は充実している。」の項目では、8割を超える高評価である。授業時数の削減に伴って、行事の精選や縮小することが話題として上がってきているが、議論を重ねて総合的に判断していきたい。

- (2) 「3.学校からの情報提供について」の「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子分かる。」の項目では、肯定的数値が8割を超えている。学校主事が地域を回って学校だよりを投函しているため、学校の様子を知らせることができている。また、学校公開や道徳授業地区公開講座なども地域に公開しているため、多くの方にご来校いただいている。今後も地域に根差した学校としての役割を果たしていきたい。
- (3) 「4.学校運営について」の「学校の重点目標が明確である。」の項目では、9割に迫る肯定的数値である。年度当初の保護者会をはじめ、学校運営委員会や学校協議会、学校関係者評価委員会等で、校長による学校経営方針の説明を行っている。それによって高い数値になっていると考えられる。引き続き丁寧に説明を行っていきたい。
- (4) 「5.地域との連携について」の「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」の項目では、「A」「B」合わせて6割近くになっている。道徳授業地区公開講座の講演会等で学校協議会とPTAが参加をしているので、今後もさらに認知が広がっていくと思われる。「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」では、運営委員会の議事録を各家庭や地域に配布しているため、肯定的数値も7割を超えており、十分周知されていることが分かる。

